

3. 教育活動

① 大学院教育

センターの研究部教員は、スラブ・ユーラシア地域研究の専門家、研究者の養成を目的として、2000年度（平成12年度）から大学院教育に参画した。北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻にスラブ社会文化論専修という協力講座を設け、センターの研究部教員全員が加わっている。政治学、経済学、歴史学、文学といった個別のディシプリンの研究ではなく、学際的な地域研究を目指すのが最大の特徴である。スラブ・ユーラシア地域に関する豊富な文献資料が利用でき、日本人・外国人の第一線の研究者との交流ができるなどのメリットから、入学者の半分以上は他大学の卒業生である。さらに、共同の研究室が設けられ、共用のパソコンが利用できるなどの特典もあるほか、21世紀COEプログラムにより、学会報告の際の旅費の補助、海外での調査・研究に対する補助なども受けられるようになっている。

入学者数

在籍者数

年度	修士課程	博士後期課程	年度	修士課程1年	修士課程2年	博士後期課程1年	博士後期課程2年	博士後期課程3年	計
2000	3	0	2000	3	0	0	0	0	3
2001	0	4	2001	0	3	4	0	0	7
2002	9	2	2002	9	2	2	4	0	17
2003	7	1	2003	7	9	1	2	4	23
2004	7	4	2004	7	12	4	1	6	30
2005	5	7	2005	5	13	7	4	7	36

授業の面では、教員と大学院生全員が参加するスラブ社会文化論総合特別演習というユニークな演習が設けられている。この演習では、毎回2～3名の院生が自己の研究について報告し、質疑応答を行う。院生同士、互いにどのような研究を行っているのか知るだけでなく、学際的な意見交換の場ともなっている。このほか、英語とロシア語の文献講読を行う授業がそれぞれ毎学期開講され、ルーマニア語などの授業も行われている。さらに、授業という形態ではないが、有志の教員と院生により、ポーランド語、ウクライナ語、カザフ語などの勉強会も開かれている。

2004年度からは、21世紀COEプログラムの一環として、大学院共通授業「スラブ・ユーラシア学」が始められている。

3. 教育活動

開講科目

授業科目	担当教員	授業題目	開講年度
スラブ社会文化論特殊講義	宇山	中央アジア研究	2000
	皆川	移行期のロシア政治	2000
	林	東欧の民族と国家	2001
	原	ロシア極東史の諸問題	2001
	田畑	ロシアの経済	2002-2004
	井上	シベリアを読む	2002
	岩下	ロシアとアジア	2003-2005
	林	ロシア・東欧比較政治	2003-2005
	原	ロシア近現代史論	2003-2005
望月	ロシアの文化	2005	
スラブ社会文化論総合特別演習	全員	スラブ・ユーラシア研究	2000-2005
スラブ地域文化論特別演習	望月	近代ロシア文芸と思想	2000
	井上	北方ユーラシア民族研究	2000-2001
	望月	近代ロシア文化思想	2001
	宇山	中央アジア地域文化研究	2001
	原	ロシア近現代史論	2002
	宇山	中央アジア地域研究の諸問題	2002
	望月	ロシア文化論	2002-2004
	望月	近代ロシア文化思想史	2002-2005
	宇山	中央ユーラシア地域研究	2003-2005
	井上	シベリアを読む	2003
	家田	ハンガリー民族問題研究	2004
	カルヤヌ	ルーマニア言語文化研究	2004-2005
	前田	コーカサス地域研究	2005
スラブ地域社会論特別演習	田畑	転換期ロシア経済の制度と動態	2000
	家田	体制転換期の東欧社会	2000
	田畑	旧ソ連・東欧諸国経済の現状	2001
	家田	東欧社会経済研究	2001
	山村	ロシア・東欧の比較経済制度論	2001
	家田	東欧比較社会論	2002-2004
	松里	スラブ・ユーラシア圏地域政治学の基礎	2002
	山村	転換期ロシアの経済と社会	2002-2005
	松里	ロシア帝国論	2003, 2005
	田畑	ロシアの経済	2003-2004
	荒井	ロシアにおける連邦主義と地域経済	2003-2005
	松里	新制度主義から見た旧社会主義諸国の政治	2004
	田畑	スラブ・ユーラシア地域の経済	2005
	スラブ地域相関論特別演習	林	東欧地域の政治変動と国際関係
松里		ロシア・東欧地域比較政治論	2000
松里		スラブ・ユーラシア圏における民族信教関係	2001
村上		日露経済関係論	2001
村上		日露経済関係史	2002
岩下		ロシアとアジア	2002
林		東欧国際関係史	2002-2005
村上		日露経済関係現代史	2003-2004
家田		ハンガリー民族問題研究	2005
家田		東欧比較社会論	2005

大学院共通授業

	2004		2005	
	科目名	担当教員	科目名	担当教員
スラブ・ユーラシア学Ⅰ	地球化と中域圏	林、家田、松里、岩下、宇山、森本	東欧体制転換論	林、家田、吉野、橋本
スラブ・ユーラシア学Ⅱ			ロシア文化研究の最前線	望月、杉浦、宇佐見、大西
スラブ・ユーラシア学Ⅲ			中央アジア・シベリアの人類学	宇山、吉田、高倉、渡邊

② 学位論文

センター教員が主査となって審査を行い、学位の授与された論文は以下のとおりである。修士論文の数は、2001年度に1、2002年度に2、2003年度に4、2004年度と2005年度に各6となっている。

博士論文（課程博士）

年度	氏名	題目	主査
2005	志田 恭子	ベッサラビア統治から見た帝政ロシアの膨張と統合：1812-1917年	松里 公孝

博士論文（論文博士）

2004	塩原 俊彦	現代ロシアの経済構造	田畑伸一郎
2004	村上 隆	北樺太石油コンセッション 1925-1944	原 暉之

修士論文

2001	クリフツォフ、ドミトリー	Political Strategy of the Soviet Union in the Far East and the San Francisco Peace Conference	岩下 明裕
2002	市川 渉	プーシキンの作品における狂気のテーマと当時の精神医学について	望月 哲男
2002	仲井 大祐	パーヴェル・フロレンスキー：無限の考察	望月 哲男
2003	秋山 徹	ロシア帝国とキルギズ社会：遊牧民定住化を巡って	宇山 智彦
2003	大武由紀子	ソヴィエト政治的プロパガンダ・ポスターについて：グスタフ・クルーツィス（1885-1938）の場合	望月 哲男
2003	シソonz、マイケル	北海道とロシア極東の経済交流：ソ連崩壊以後の貿易の変化とその影響	村上 隆
2003	バトバヤル、オイトフ	モンゴルの独立とロシア・モンゴル関係（1911年～1915年）	原 暉之
2004	井上 岳彦	19世紀前半における帝政ロシアのカルムイク人政策と「コサック化」	宇山 智彦
2004	加藤美保子	ロシアの安全保障とアジア太平洋の地域主義	岩下 明裕
2004	鈴木 治郎	ロシアの1999年外国投資法と自動車産業における外国投資	田畑伸一郎
2004	立花 優	独立後のアゼルバイジャンにおける政党と議会	宇山 智彦

3. 教育活動

2004	濱口 史彦	中国・新疆ウイグル自治区における「反分裂主義闘争」の分析	宇山 智彦
2004	武藤 玲子	Two Constitution Engineering Process in Moldova: How Have They Affected the Democratic Transition?	松里 公孝
2005	麻田 雅文	ロシア帝国による満州経営：中東鉄道を中心として	原 暉之
2005	大坪 春奈	戦間期ルーマニア外交のディレンマ：ティトウレスク外交を中心に	林 忠行
2005	齊田 えり	19世紀末ロシア極東の農業	原 暉之
2005	当銘 祥子	フルシチョフ期のソ連外交：対外政策決定過程にみる個人のイニシアティブ	岩下 明裕
2005	封 安全	中国とロシアの経済・貿易関係	田畑伸一郎
2005	ワシレフスカヤ、ビクトリア	ソ連期におけるサハリン島北東部大陸棚石油・天然ガス探鉱・開発問題について	荒井 信雄

③ 鈴川基金奨励研究員制度

センターでは、1987年以來、篤志家鈴川正久氏（1915～2004年）からの寄附（鈴川研究奨励基金）をもとにして、道外に住む若手研究者がセンターに短期間（2～3週間程度）滞在して行う研究を援助している。毎年公募により選ばれた5～10人程度の若手研究者（主として博士後期課程に在籍する大学院生）がセンターに滞在している。センター所蔵資料の利用、スタッフや客員研究員との研究交流、各種研究会・シンポジウムへの参加などが魅力となっており、競争率が2～3倍となる年がある。なお、2003年度に21世紀COEプログラムが発足したのに伴い、2004年度以降は、「COE=鈴川基金奨励研究員」という名称で奨励研究員の募集、助成を行っている。日本における若手研究者の研究水準の向上、研究交流の促進、センターの全国共同利用の促進など、この制度は大きな効果を及ぼしている。

a. 応募状況

年度	応募者数	採用数
1999	24	5
2000	10	3
2001	16	5
2002	9	4
2003	9	6
2004	20	9
2005	13	5

3. 教育活動

b. 鈴川基金奨励研究員一覧

年度	氏名	所属	滞在期間	専攻分野・研究テーマ
1999	浅岡 善治	東北大・院・博士課程	1999. 7. 21 ～ 8. 4	後期ネップの農村政策における出版関連活動の位置と実状
1999	小椋 彩	東京大・院・博士課程	1999. 7. 19 ～ 8. 2	レーミングとアヴァクーム及び旧教徒の関わりについて。及び北方ロシアの民俗学的資料収集
1999	小野寺利行	明治大・院・博士課程	1999. 7. 21 ～ 8. 3	中世ノヴゴロドの対ハンザ通商関係におけるイワン商人団の役割に関する一考察
1999	栗山こずえ	英国ブラッドフォード大・博士課程	1999. 10. 28 ～ 11. 4	ユーラシア大陸における民族・民俗文化の動向と今日のエスニックアイデンティティ
1999	田中 良英	東京大・院・博士課程	1999. 7. 19 ～ 8. 6	18世紀前半のロシア行政機構における意志決定過程の分析
2000	金ヒョンヨン	東京大・院・博士課程	2000. 7. 10 ～ 7. 18	20世紀現代ロシア詩：ヨシフ・プロツキーを中心とする当時のペテルブルグの詩人たちについての研究
2000	後藤 正憲	大阪大・院・博士課程	2000. 7. 10 ～ 7. 29	1870年代のロシア文学、民族史、政治運動におけるナロードの理解
2000	中澤 達哉	早稲田大・院・博士課程	2000. 7. 10 ～ 7. 23	1848年革命直後のスロヴァキア国民形成の国制史的研究
2001	神長 英輔	東京大・院・博士課程	2001. 7. 9 ～ 7. 27	北洋漁業の成立とその発展過程の分析
2001	斎藤 厚	慶応義塾大・院・博士課程	2001. 7. 9 ～ 7. 25	旧ユーゴスラヴィアのセルビア語地域における言語動向
2001	中澤佳陽子	東京大・院・博士課程	2001. 6. 25 ～ 7. 13	フセヴォロド・イヴァーノフの長編小説『クレムリン』と『ウ』について
2001	藤森 信吉	慶応義塾大・院・博士課程	2001. 7. 4 ～ 7. 14	ウクライナのエネルギー政策
2001	向山 珠代	京都大・院博士課程	2001. 7. 11 ～ 7. 27	アспектという文法カテゴリーの形成等に関する問題
2002	青木 則子	神戸市外国語大・院・博士課程	2002. 7. 5 ～ 7. 21	ロシア語の「待遇表現」に関する研究
2002	久保 慶一	早稲田大・院・博士課程	2002. 7. 8 ～ 7. 21	ボスニア和平プロセスにおける政党と民族問題
2002	野町 素己	東京大・院・博士課程	2002. 7. 12 ～ 7. 27	スラブ言語学における統語・意味論研究
2002	濱本 真実	京都大・院・博士課程	2002. 7. 1 ～ 7. 20	勤務タタールのロシア正教改宗について
2003	我妻 真一	立命館大研究生	2003. 7. 14 ～ 7. 26	1968年のチェコスロヴァキア改革運動
2003	安達 大輔	東京大・院・博士課程	2004. 1. 23 ～ 2. 8	ロシア・センチメンタリズム文学の研究
2003	岡田 美保	青山学院大・院・博士課程	2003. 7. 16 ～ 7. 29	ロシア／ソ連の武器移転の研究

3. 教育活動

2003	田中まさき	東京大・院・博士課程	2003. 7. 3 ～ 7. 24	演劇を通じたソヴィエト文化史の研究
2003	道上 真有	大阪市大・院・博士課程	2004. 1. 26 ～ 2. 8	移行期ロシアの現物経済化の研究
2003	南野 大介	筑波大・院・博士課程	2003. 7. 15 ～ 7. 31	ウクライナ現代政治の研究
2004	井手 康仁	慶應義塾大・院・博士課程	2004. 7. 14 ～ 7. 31	現代の日ロ(ソ)外交、とりわけ80年代以降
2004	井上まどか	東京大・院・博士課程	2004. 7. 13 ～ 8. 2	ソ連邦崩壊後のロシア連邦および中・東欧諸国における諸宗教の衝突・共生
2004	大山麻稀子	千葉大・院・博士課程	2005. 12. 1 ～ 12. 19	ナロードニキ運動の1880年代における展開と形象
2004	長縄 宣博	東京大・院・博士課程	2004. 8. 23 ～ 9. 7	ロシア帝国末期のムスリム社会と国家
2004	平松 潤奈	東京大・院・博士課程	2004. 7. 12 ～ 7. 26	ソ連文学、特にスターリン文化の身体表象に関する問題
2004	福間 加容	千葉大・院・博士課程	2004. 10. 7 ～ 10. 27	ロシア近代美術史、20世紀初頭の象徴主義芸術と神秘思想
2004	松本かおり	大阪大・院・博士課程	2004. 7. 14 ～ 7. 31	1990年代ロシアの若年層の職業意識と労働市場の変化
2004	宮川 絹代	東京大・院・博士課程	2004. 7. 16 ～ 7. 29	20世紀ロシア文学、特にブーニン
2004	Vassiliouk, Svetlana	法政大・院・博士課程	2004. 7. 1 ～ 7. 21	70年代以降の日ロ関係におけるエネルギー政治
2005	玄 承洙	東京大・院・博士課程	2005. 7. 6 ～ 7. 18	チェチェン紛争とイスラーム
2005	中地 美枝	米国シカゴ大・院・博士課程	2005. 7. 4 ～ 7. 24	第二次世界大戦後のソビエト史(ジェンダー、人口問題、家族法、生殖医学)
2005	乾 雅幸	関西大・院・博士課程	2005. 7. 25 ～ 8. 5	十月革命と国際主義：在ロシア捕虜団体を通じたソヴィエト政権による国際主義活動の実態とその評価
2005	Baryshev, Eduard	九州大・比較社会文化学府博士課程	2005. 9. 5 ～ 9. 23	日露関係史、特に第一次世界大戦期
2005	八木 君人	早稲田大・院・博士課程	2005. 8. 1 ～ 8. 7	「文学史」という概念史におけるトゥイニャーノフの位置

④ ポスドク制度 (COE 非常勤研究員など)

センターでは、種々の制度、資金を利用してポスドク研究員を毎年数名雇用している。この制度は、1995年度に「卓越した研究拠点 (COE)」の指定を受けたときに始まり、毎年3名程度の研究員を雇用した。このCOE形成プロジェクトが2001年度で打ち切られたため、2002年度は非常勤研究員枠で1名を雇用した。この枠は、2003～2004年度

3. 教育活動

は2名認められ、2005年度は1名とされた。2003年度から21世紀COEプログラムが始まったので、2003年度後期から年間4名程度の21世紀COE研究員を雇用している。原則として任期は2年である。

ポスドク研究員は、共同研究室を与えられ、スタッフの助言を得ながらそれぞれの研究を推し進め、また、研究発表の機会も与えられている。同時に、国際シンポジウムの準備、各種共同研究の実施などにおいて、専任研究員を補佐する役割を果たしている。

氏名	最終学歴	在職期間	専攻分野・研究テーマ	現職
金 成浩	東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学	1998. 4. 1～1999. 9. 17 (COE 非常勤研究員)	ブレジネフ期のソ連外交政策	琉球大学法文学部助教授
久保 久子	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了	1998. 4. 1～2000. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	ロシア文学・プラトーフとロシア分離派	稚内北星学園大学情報メディア学部助教授
上田理恵子	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学	1998. 9. 1～2000. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	オーストリア、ハンガリーを中心とする東欧法制史	熊本大学教育学部助教授
楯岡 求美	東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程修了	1999. 10. 1～2000. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	20世紀ロシア演劇	神戸大学国際文化学部助教授
坂井 弘紀	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程単位取得退学	2000. 4. 1～2002. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	中央ユーラシア＝テュルク口承叙事詩	和光大学表現学部専任講師
塚崎今日子	早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了	2000. 4. 1～2002. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	東スラヴのフォークロア、民俗学	札幌大学非常勤講師
畠山 禎	名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了	2000. 4. 1～2002. 3. 31 (COE 非常勤研究員)	近現代ロシアにおける都市形成プロセスと建設労働者	東北大学東北アジア研究センター研究機関研究員
毛利 公美	東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程修了	2002. 4. 1～2005. 3. 31 (非常勤研究員)、 2005. 4. 1～(21世紀COE 特任研究員)	亡命ロシア文学・現代ロシア文学	
藤森 信吉	慶應義塾大学法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学	2003. 4. 1～2005. 3. 31 (非常勤研究員)	現代ウクライナ研究、ウクライナ・ロシア関係	スラブ研究センター助手
阿部 賢一	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了	2003. 10. 1～2004. 3. 31 (21世紀COE 研究員)	チェコ文学・比較文学	武蔵大学人文学部専任講師
大野 成樹	北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	2003. 10. 1～2005. 3. 31 (21世紀COE 研究員)	ロシアにおける金融諸問題	スラブ研究センターCOE 共同研究員

3. 教育活動

越野 剛	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学	2003. 10. 1 ~ 2005. 3. 31 (21世紀COE研究員)	19世紀ロシア文学と病気のイメージ、ペラルーシ文学	学振特別研究員
後藤 正憲	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了	2003. 10. 1 ~ 2004. 9. 30、 2005. 12. 8 ~ (21世紀COE研究員)	現代ロシアにおける医療実践	
井濶 裕	北海道大学大学院大学院工学研究科博士後期課程修了	2004. 4. 1 ~ 2005. 3. 31 (21世紀COE研究員)、 2005. 4. 1 ~ (非常勤研究員)	近代サハリンの歴史と文化	
福田 宏	北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了	2005. 4. 1 ~ (21世紀COE研究員)	チェコ社会における多極化とネイション形成	
永山ゆかり	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了	2005. 4. 1 ~ (21世紀COE研究員)	アリュートル語(チュクチ・カムチャッカ語族)	
荒井 幸康	一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了	2005. 4. 1 ~ (21世紀COE研究員)	モンゴル・ブリヤート・カルムイクの言語政策	